

職員による自己評価

A 「業務改善」について

保護者アンケートを課会議で共有し、次年度の方向性についても共有されている。  
コロナ禍で外部への見学、研修が不十分を感じる。

B 「適切な支援の提供」について

感染対策を行いながらプログラムを検討するのは難しい。コロナ禍で子どもたちが発散できる活動が減り、プログラムがやや固定化されているように感じる。

C 「関係機関との連携」について

コロナ禍であるが、電話相談など出来る支援を検討し行っている。  
移行支援として、限られた時間の中で、必要ならば VTR などを使用して行っている。

D 「保護者への説明責任等」について

保護者会はないが、親子日にクラス懇談は行っている。  
活動概要は毎回直接伝えている。

E 「非常時等の対応」について

コロナ禍の中、今年度も特に感染症対策を徹底している。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は 95%。  
同じプログラムでも個性に応じて細かく対応してくれている。  
同じパターンの繰り返しのようを感じるが、それが逆に意味のあるものなのかなとも感じている。  
繰り返すことでできるようになることが多いので固定化が悪いとは思わない。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は 92%。  
保護者同士の連携の支援について、コロナという事で親同士の交流が少ないのが残念。  
保護者同士の連携の支援について、コロナの心配もあるので特に必要とは思いません。  
共通理解ができているかについて、何事にも様子を見ましようが多くて不安です。  
保護者への発信について、就学に向けての動画はとても参考になった。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は 85%。  
週1回の利用なので訓練は難しいかも知れません。

D 「満足度」について

満足との評価は 97%。  
今日はふたばだよと言うと嬉しそうにしています。

事業所内での分析

- 今年度も昨年度に引き続きコロナウイルス感染症拡大により、本来の集団療育は展開できず、密を避け、感染防止対策を徹底しながらの療育を展開せざるをえなかった。
- コロナ禍が続く難しかったが、プログラムが楽しく工夫されている。お子さんの発達に応じて対応ができています。
- コロナ禍が続く、今年度も親の会の活動は難しく、保護者同士の連携についての支援も難しかった。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- 障害がある子どもが自分を表出し、自分らしく生きられるよう支援している。  
子どもが主体的に活動できるような「できる」「わかる」環境を設定し、子どもが自分の思いを表出して、自分で「できる」達成感を感じ、人と関わったり助けを求めたりする関係ができるように支援している。
- 保護者が安心して地域で生活していけるように支援している。  
個人面談を実施するとともに、親子通園時には療育での子どもの様子を見てもらって説明し、保護者が家庭での支援に生かせるようにしている。連絡帳や日々の会話で保護者の思いを聞き取り、就学などの個別の相談にのり、就学後の相談にも応じている。様々なテーマで保護者教室や療育講座を実施して必要な情報を提供し、保護者が見通しをもってその後のライフステージを乗り越えて行けるよう支援している。
- 他職種間でチームアプローチし、それぞれの専門性を療育に生かしている。  
センターでは、各課に専門職を配置し、多職種で連携して子どもの支援にあたっている。

### 事業所の改善点

- 新しい療育のあり方に向けての取り組みをさらに進めていく必要がある。  
センターでは近年の新規申込件数の増加を受けて、課題ごとに検討班を編成して新しい療育体制作りに向けて検討を重ねている。診療までの時間がかかるため第一次支援に力を入れ、申し込み後の面談でソーシャルワーカーが、子ども・保護者のニーズを把握し、通園している保育所・幼稚園を訪問してアドバイスをするなど、地域の障害のある子どもたち及び保護者が専門性のある支援を受けられるように努めているが、人員体制や資金面での限界もあり課題となっている。地域集団で生活する子ども向けの間接支援の強化など、検討中の取り組みをさらに進めていき新しい療育体制を構築する必要がある。
- 感染対策を十分に行いながらセンターを利用している児童や保護者が、安心・安全な環境で療育が受けられるよう環境や対応に配慮した運営を引き続き強化していく必要がある。
- 感染防止対策を講じた上での保護者同士の連携について、支援を工夫をしていく必要がある。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

開所20周年を迎えた今年、保護者からの貴重なご意見をいただき、多くの課題が抽出できたのは非常に良かったと思います。今後も「子どもの療育」「保護者支援」の二本柱を大切に、利用者本位のサービス提供に向けて、職員一同精一杯取り組んでいきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

職員による自己評価

A 「業務改善」について

毎年、必要な研修を組んでいければ良いと思う。  
コロナ禍で難しくなっている部分はあるが、外部研修を個人で探すのは限界があるのでインフォメーションして欲しい。

B 「適切な支援の提供」について

POT と連携し、新しいプログラムにチャレンジした。  
ミーティングの中でクラス間の情報共有を行った。  
他クラス、他センターのアイデアをもっと共有しても良いと思う。

C 「関係機関との連携」について

コロナ禍のため療育参観など実施できず、不十分ではあると思う。  
医療のことなど、保護者からの聞き取りを行っているが、機関同士の直接連携の機会は少ない。

D 「保護者への説明責任等」について

コロナ禍で保護者同士の連携への支援は難しかった。

E 「非常時等の対応」について

避難訓練について、コロナ禍で定期的にはできていない。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は96%。  
プログラムについて、とてもよく工夫されている。  
昨年度から園庭遊びがほとんど無いのが残念。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は96%。  
職員からの子供の状況説明等はわかりやすく、情報伝達についてもわかりやすいと思う。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は77%。  
緊急時対応、感染症対応マニュアル等についての周知・説明はとてもよくされている。  
非難訓練はもっと行って欲しい。

D 「満足度」について

満足との評価は96%。  
子どもは楽しく通わせてもらっている。  
親切に声がけしてもらっている。

事業所内での分析

- 今年度も昨年度に引き続きコロナウイルス感染症拡大により、本来の集団療育は展開できず、密を避け、感染防止対策を徹底しながらの療育を展開せざるをえなかった。特に、感染防止対策を徹底しながらの肢体不自由児への給食提供は難しかった。
- コロナ禍が続き、今年度も親の会の活動は難しく、保護者同士の連携についての支援も難しかった。
- 今年度もコロナ禍で、予定していた避難訓練を定期的には実施できなかったことが、非常時の対応についての評価が低い要因となっている。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- 障害がある子どもが自分を表出し、自分らしく生きられるよう支援している。  
子どもが主体的に活動できるような「できる」「わかる」環境を設定し、子どもが自分の思いを表出して、自分で「できる」達成感を感じ、人と関わったり助けを求めたりする関係ができるように支援している。
- 保護者が安心して地域で生活していけるように支援している。  
個人面談を実施するとともに、親子通園時には療育での子どもの様子を見てもらって説明し、保護者が家庭での支援に生かせるようにしている。連絡帳や日々の会話で保護者の思いを聞き取り、就学などの個別の相談にのり、就学後の相談にも応じている。様々なテーマで保護者教室や療育講座を実施して必要な情報を提供し、保護者が見通しをもってその後のライフステージを乗り越えて行けるよう支援している。
- 他職種間でチームアプローチし、それぞれの専門性を療育に生かしている。  
センターでは、各課に専門職を配置し、多職種で連携して子どもの支援にあたっている。

### 事業所の改善点

- 新しい療育のあり方に向けての取り組みをさらに進めていくことが必要である。  
センターでは近年の新規申込件数の増加を受けて、課題ごとに検討班を編成して新しい療育体制作りに向けて検討を重ねている。診療までの時間がかかるため第一次支援に力を入れ、申し込み後の面談でソーシャルワーカーが、子ども・保護者のニーズを把握し、通園している保育所・幼稚園を訪問してアドバイスをするなど、地域の障害のある子どもたち及び保護者が専門性のある支援を受けられるように努めているが、人員体制や資金面での限界もあり課題となっている。地域集団で生活する子ども向けの間接支援の強化など、検討中の取り組みをさらに進めていき新しい療育体制を構築する必要がある。
- 重度肢体不自由児、医療ケア児が多い状況に合わせて、感染対策を十分に行いながら安心・安全な療育を適切な頻度で行う工夫が必要である。
- 緊急時対応、災害、防犯について保護者への周知が不足している。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

開所20周年を迎えた今年、保護者からの貴重なご意見をいただき、多くの課題が抽出できたのは非常に良かったと思います。今後も「子どもの療育」「保護者支援」の二本柱を大切に、利用者本位のサービス提供に向けて、職員一同精一杯取り組んでいきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

職員による自己評価

A 「業務改善」について

毎回療育後のミーティングで振り返りを行っている。  
職員研修について、今年度は ZOOM による意見交換をすることができた。

B 「適切な支援の提供」について

ミーティング、各クラスのカンファレンスがしっかりと行われ、各クラスの状況の把握、分析を行い、各クラスの状況に合わせた工夫を行っている。

C 「関係機関との連携」について

コロナ禍でもあり、電話での相談が多かった。

D 「保護者への説明責任等」について

課題等の保護者との共通理解については、やや時間の足りなさがあり、ポイント整理や電話連絡での工夫が必要。  
保護者同士の連携の支援については、保護者のつながり、ニーズの変化の分析が必要。

E 「非常時等の対応」について

身体拘束について、あまり該当する児童はいないが、非常時には保護者と共有しながら行えると良いと思う。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は 99%。  
支援について、日々たくさんの新しい発見があります。  
同じようなプログラムでも少しずつ変化があり良いと思う。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は 91%。  
先生の話がとても参考になるしわかりやすい。  
保護者同士の連携支援については、コロナ禍なので難しいと思う。  
おたより、マチコミでのメッセージがありわかりやすい。  
先生とお話ができる時間、機会がもう少しあればうれしい。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は 84%。  
他の民間の支援施設では地域の避難場所まで教えて下さいましたが、こちらではなかったように思う。  
感染症については十分に説明されている。

D 「満足度」について

満足との評価は 98%。  
子どもがとても楽しみにしています。制作で作るのが遊べる物だと喜んでます。  
満足しているが、もう少し時間が長いとよい。コロナ対策があるので残念です。

事業所内での分析

- 今年度も昨年度に引き続きコロナウイルス感染症拡大により、本来の集団療育は展開できず、密を避け、感染防止対策を徹底しながらの療育を展開せざるをえなかった。
- コロナ禍であり、保護者同士の連携の場が十分には提供できていない。
- 非常時の対応について、保護者への周知が十分でない。

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- **一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している**  
診察・各種評価の結果を基に、療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を実施している。
- **保護者支援の充実に努めている**  
定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- **他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている**  
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

### 事業所の改善点

- 小グループ療育などのメリットを整理して、引き続き、登園方法や時間の使い方などバリエーションを広げ、低頻度療育のあり方を探っていく必要がある。
- コロナ禍が続き、保護者同士の連携についての支援が難しい状況が続いており、保護者連携のあり方についての検討が必要である。
- 非常時の対応についての保護者への周知が十分でなく、緊急時対応、災害、防犯などの対応について、周知の仕方を検討する必要がある。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者からの貴重なご意見をいただき、多くの課題が抽出できたのは非常に良かったと思います。今後も「子どもの療育」「保護者支援」の二本柱を大切に、利用者本位のサービス提供に向けて、職員一同精一杯取り組んでいきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。